

潜在化しやすい 犯罪被害への支援

～子ども達の心の声に耳を傾ける～

藤森 和美 (コーディネーター)

◇武蔵野大学人間科学部教授 人間科学博士 (専門: 臨床心理学)
公認心理師 臨床心理士

◇平成5年 北海道南西沖地震の体験から、災害を体験した子ども達の心のケアに取り組み、被災地での心理的支援を実施。
また、自然災害だけでなく、犯罪や事故により被害を受けた子どもへの支援活動を実施するとともに、心理支援の専門家の養成等にも力を入れている。

◇主な著書: 『災害を体験した子どもたち-こころの理解とケア-』
『子どものトラウマと心のケア』
『子どもへの性暴力 その理解と支援』

安永 智美 (パネリスト)

◇福岡県警察少年課課長補佐、警察庁指定広域技能指導官
公認心理師

◇昭和59年拝命、福岡県警察官として12年間勤務した後、平成8年に少年非行やいじめ、家庭内暴力など様々な少年問題に対応する少年育成指導官に転身し、少年サポートセンター勤務を経て、現職。

◇子どもを犯罪の加害者にも被害者にもしないための少年相談や立ち直り支援を実施、サポレンジャー (サポートセンター) の「レッド隊長」の名で親しまれ、全国の警察、司法機関、教育機関等での講演歴多数。

小木曾 健 (パネリスト)

◇グリー株式会社 政策企画グループ シニアマネージャ
/国際大学GLOCOM客員研究員

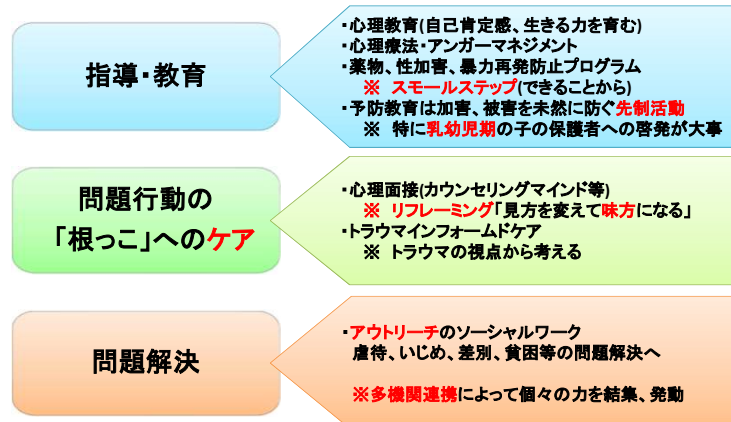
◇複数のITベンチャーを経て現職。「ネットで絶対に失敗しない方法」をテーマに全国の官公庁、企業、学校で2000回以上、40万人以上に講演。ネットリテラシーに関する著書も多数。

◇主な著書: 『11歳からの正しく怖がるインターネット』
『13歳からの「ネットのルール」』

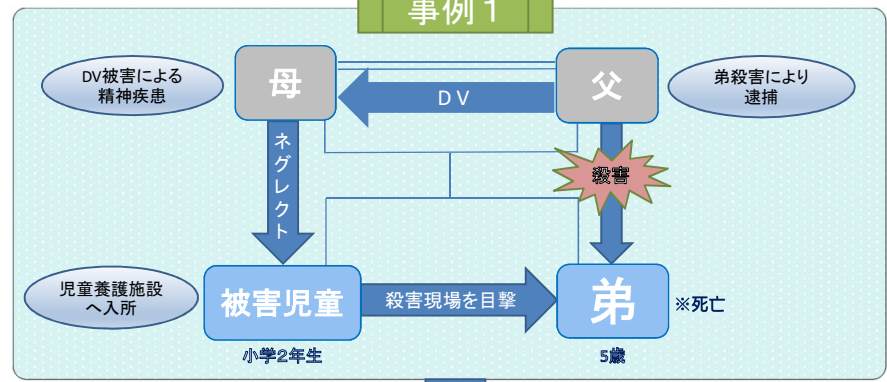
栗原 一二三、栗原 穂瑞 (パネリスト)

- ◇ 犯罪被害者遺族
- ◇ 自助グループ「彩のこころ」会員
- ◇ 平成24年8月、母親が金品を目当てに自宅に侵入してきた見ず知らずの男性に刃物で刺殺された強盗殺人事件の遺族

支援・援助の3本の矢と活動の主眼



事例1



被害児童が小学5年生の時、少年サポートセンターが行った非行防止教室の感想文に、父親が弟を殺害した時の状況や母親が日常的に暴行されていたこと、母親から受けたネグレクト(育児放棄)について記載されていたため面談を実施。

事例2

